

令和2年度“オール近大”新型コロナウイルス感染症 対策支援プロジェクト研究報告書

企画題目	ニューノーマルに向けての事業創造プラットフォームの開発研究 —学生・研究者・企業参画型経済循環共創プラットフォームモデルの開発
研究者所属・氏名	研究代表者：廣田章光 共同研究者：布施匡章、名淵浩史、峯尾圭

1. 研究、開発・改良、提案目的・内容

■背景

本支援活動の全体像は「ニューノーマル」（新しい日常）に向けた、ものづくり企業、地域の魅力をすすめる食、芸術に関する産業、そして観光産業をモデルにニューノーマルに向けた、リサーチ、開発、情報発信を創造する共創プラットフォーム（場）を構築、提供することにある。

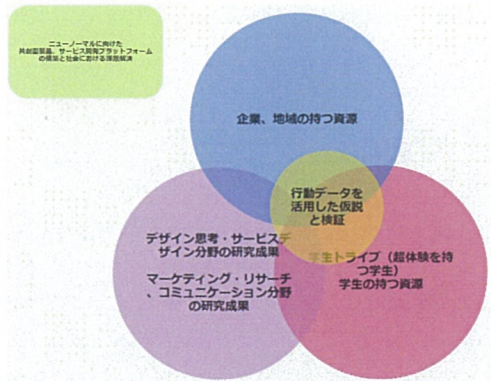
新型コロナウイルスとの共存によるニューノーマルには、産業界、教育界を含む社会全体に新しい仕組み創造が求められている。産業、地域においては需要の変化、サプライチェーンの変化、資金調達の変化に直面しているが、大企業も含めて対応に関する方向性は見いだせていない。高質の資源を有しながらも変化の大きさからその活用についてはすぐに見いだせないでいる。そのためニューノーマルに生まれる市場と自社の技術の新たな組合せを探索し続けている。しかし従来と同じ関係の中ではその探索範囲は限界がある。ニューノーマルには従来とは異なる業界、企業、地域、顧客などの組合せが必要となる。そのために従来とは異なる業界、企業、地域、顧客など組合せを促進する「場」が必要となる。

一方、大学の教育についても対面講義とオンライン方式を組合せ、学習の機会拡大と質の向上を図る必要性に迫られている。また一般学生に加えて産業界の人材の「学び直し」を支援するサービスを提供することが社会の要請として求められるはずである。大学の資源には研究、教育に加えて学生の資源がある。学生の持つ消費体験、ソーシャルメディアを使った情報発信体験を資源として活かし、オンラインを使ったプロジェクトベースドラーニング（PBL）教育を実践的に活用する。

■支援目的

新たな生活様式、業務様式の創造が迫られている。創造の鍵となるのが従来の社会システムを構成する人、技術・ノウハウ、資金の組合せを再構築することにある。

一方、組合せの再構築には試行錯誤が必要となる。新たな社会ニーズの発見と、ニーズ解決のための製品、サービスの開発、製品・サービス情報の発信をオンラインで一貫して、社会資源の新たな組合せによる開発、マーケティングを行うプラットフォームを構築し、社会に公開することが本活動の目的となる。

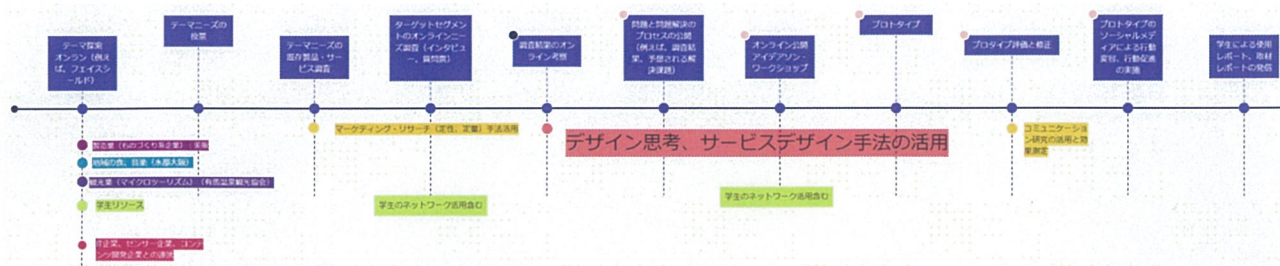


具体的には2つの分野における支援を対象とする

- (1) ものづくり企業のマーケティング支援、(2) 観光分野のマーケティング支援。

2. 研究、開発・改良、提案経過及び成果

マーケティングプラットフォームは、(1)ものづくり企業のマーケティング支援、(2)観光分野のマーケティング支援、(3)大学生のコロナ禍の行動変容の実態について、検索データを元に分析、考察をする。



2. 成果

(1) ものづくり企業のマーケティング支援

東大阪の PE (ポリエチレン)、PP (ポリプロピレン)、段ボールの加工技術を持つ、株式会社美販 <http://www.bihan.jp/> と連携し、医療、介護分野を含むセグメント別フェイスシールドを、リサーチ、開発、テスト、情報発信をオンラインによって一貫して行い、「ものづくり」開発プラットフォームを構築した。学生調査による気づきから従来とは異なるフェイスシールドの新たな役割を創造した。そしてそのプロトタイプを 6 種類開発した。

また、本テーマに参加したメンバーによるプラットフォームのソフト部分の中核を成す、サービスデザインに関する説明動画を制作し、ノウハウが共有できる体制を整えた。

②水都大阪 (<https://www.suito-osaka.jp/>) と連携しクルーズ事業を行う、株式会社カトープレジャーグループ、大阪水上バス株式会社に対する提案と意見聴取を行った。

③学生の行動変容調査と調査結果に基づく、問題解決型製品の開発の成果として、Yahoo! Japan、アーティフィス (エンタテインメントテクノロジー)、小川良 (マスクプリント) と本学の連携事業として、AR マスクを開発。Must (着用しなければならない) マスクではなく、Well (着用したい) マスクへ転換するエンタテインメントマスクを開発。

3. 本研究と関連した今後の研究、開発・改良、提案計画

1. フェイスシールドについては、

①現在、水都大阪事務局、カトープレジャーグループ、大阪水上バスにおけるプレゼンテーションを 3 月終えている。

②フィードバックをもとに実証を各クルーズ船で実施し、コロナウィルスで打撃を受けている観光事業の支援と感染対策に貢献する。

③また、上記企業でのテスト使用を通じて、製品化、販売をつなげることを検討。また並行してクラウドファンディングの活用も検討。

2. AR マスクについては、

①本学キャンパスでのテストを 4 月に実施し、広報室と連携してオープンキャンパスなどでの活用を通じて本学の広報に貢献する。

②テーマパーク、イベント、スポーツ観戦、観光地などで「着用したくなるマスク」としてエンタテインメント性があるマスクによって感染対策を意識することがない感染対策としての普及を目指す。

4. 研究成果の発表等

発表機関名	種類 (著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
丸善出版	著書(廣田章光・布施匡章)	2021 年 4 月
日本政策投資金融公庫機関誌	雑誌 (廣田章光)	2021 年 4 月
日本商業学会	口頭報告 (廣田章光)	2021 年 5 月

日本マーケティング学会	口頭報告（廣田章光）	2021年10月

5. 開発・改良、提案課題の成果発表等

近畿大学ニュースリリース（広報室とリリース方法調整中）

フェイスシールド開発プロセス記録報告書 2021年4月

YouTubeによるサービスデザイン動画 2021年4月